

“全校道徳”で「人権」「個性の尊重」について考えました

12月1日(木)に、福島大学准教授・前川直哉様をお招きし、「誰もが過ごしやすい学校をつくる多様な性とマイノリティ」というテーマで、全校道徳を実施しました。当初は体育館での実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大につき、リモートでの授業となりました。

前川先生による“多様な性と性的マイノリティ”のお話は分かりやすく、気づきと学びの連続でした。各学年・各学級とも、個性を尊重すること、いじめや差別のない社会を理解すること、自分を大切にしながら生きていくことなどをしっかりと受け止め、考えてくれたことと思います。



私立高校推薦結果伝達のための3学年集会に参加して…

12月1日(木)の放課後、多目的室において、「私立高校推薦結果伝達のための集会」を行いました。この集会は、校長推薦を受ける重みを自覚させ、今後の中学校生活や進学後も鏡石中学校の代表で進学したという自覚のもと「最善を尽くし」ていくことを考えさせることをねらいとしています。



校長からは、「使命」「想像力」「感謝」について、以下のことを伝えました。

☆**使命**…人生100年時代、中学3年生のここから先(入試までの期間)、自分の「命」を何に「使」うべきか。今は、自分の進路成就に向けて、ひたすら勉強や自分磨きに「命」を「使」うとき。

☆**想像**…自分の言動(ことばや行動)が、その後どのような影響をもたらすか、「想像」できる人になること。よい言動もわるい言動も最後はすべて自分に返ってくる。

☆**感謝**…入試という舞台に立つということは、多くの方々(ご家族・先生方)に支えられているからこそできること。感謝の気持ち・思いを形として表していくこと。

その後、学年主任、生徒指導担当からの話に続き、進路指導担当から「今後の準備」について説明がありました。いよいよ出願まで秒読みとなりました。入試は「総力戦」であり、「団体戦」です。鏡中スタッフ一丸となり、子どもたちの手元に「サクサク」が届くよう最善を尽くしてまいります。

家庭でも育てられる「生きる力」

以前、ある研修会に参加した折り、こんな話を聞いたことがあります。

「ある小学校で炊飯活動を行ったそうです。そのグループの分け方は1年から6年までのいわゆる“たてわり”だったそうです。その活動の中で6年生の男の子が3年生の男の子にじゃがいもの皮のむき方を教わっていたのを見たのです。」…この話を聞いて、「なるほど」と思いました。

きっと3年生の男の子は、お家の方と一緒に炊事をしているのだろう。逆に6年生の子は、そういうことをしていないのだろう、と。そうなのです。家庭にもしっかりと育てるべき「生きる力」があるのです。

洗濯の仕方(今は全自動ですが・・・)、米のとぎ方、包丁の使い方、ほうきの使い方など。家族と一緒にいけば、あるいは年長者が教えれば確実に育つ「生きる力」ですね。日々の何かと忙しい生活の中で大変だとは思いますが、お子さんと一緒に「生きる力」を見つけて、そして育ててみませんか？

